

女性の^声を地域に生かそう

政治・意思決定分野における女性参画の必要性を考える

2025年1年9日 木 13:30~15:00

武雄市役所 1階ホール

参加無料

定員30名(先着順)

講師

吉岡 剛彦さん

(佐賀大学 教育学部教授)

専門：法哲学

マイノリティの人権に関する法哲学的研究



各国における男女格差の大きさを表す「ジェンダーギャップ指数」、

2024年において日本は146か国中 **118**位です。

日本の順位が低い要因の一つとして挙げられるのが政治分野。

女性は雇用や災害時などに、より生活困窮に陥りやすいと言われます。

社会の仕組みをつくる政治分野により多くの女性が進出し、

多様性が反映される社会へと変える必要があります。

託児あり



12月23日(月)までに電話、FAXまたはメールにてお申込みください。
この申込書で、4名まで申込みができます。託児を希望される方はご連絡ください。

氏名

連絡先

団体名

(団体に所属の方のみ記入)

申し込み・
お問い合わせ先

武雄市 男女参画・市民協働課

☎ 0954-23-9141 FAX 0954-23-3816

✉ danjyo@city.takeo.lg.jp

女性の政治参画状況

県内女性議員数 (2024.4.1)

市町名	定数	議員数	うち女性	%
佐賀市	36	36	5	13.9%
唐津市	28	25	3	12.0%
鳥栖市	22	22	5	22.7%
多久市	15	15	2	13.3%
伊万里市	21	21	4	19.0%
武雄市	20	20	1	5.0%
鹿島市	16	16	2	12.5%
小城市	20	20	5	25.0%
嬉野市	16	16	4	25.0%
神埼市	18	17	2	11.8%
吉野ヶ里町	12	12	1	8.3%
基山町	13	13	5	38.5%
上峰町	10	10	0	0.0%
みやき町	16	16	1	6.3%
玄海町	10	10	0	0.0%
有田町	16	16	0	0.0%
大町町	8	8	1	12.5%
江北町	10	10	3	30.0%
白石町	16	16	2	12.5%
太良町	11	11	2	18.2%

私たちを取り巻く、現状を知ろう

- 2024年4月1日における県内20市町の女性議員数は**48人**で、全体の議員定数に占める**女性議員の割合は14.3%**です。
- 2013年2月末時点の女性議員数は22人で、割合は5.88%と2倍以上割合は増加しましたが、**全体の2割にも満たない**ことが現状です。
- 武雄市**は20人の議員数に対し、女性議員は**1人**と県内でも少ない状況です。

Q. 女性議員が増えることで何がどう変わる？

- 女性が必要とする政策の実現性が高まります。**
子育て関連、男女の賃金等格差解消、女性の健康など、女性が直面する課題への政策についての実現性が高まります。
- 女性議員が安心して働ける環境が整うと、その環境は社会全体へ広がります。**
- 女性議員の数が増えると…**
▶ 女性が働きづらい**環境の改善**につながる。

Q. 女性議員が増えるためにはどうしたらいい？

- 地域の現状を知る、政治に興味を持つ、政治を志す人を応援する。

女性の活躍を
阻むのは…

子育て、家庭生活との両立

議員として多忙な中で、子育てや家事などは周りのサポートがないと難しい。

ハラスメント被害

女性は政治家に向いていないというイメージ。
女性は家庭のことに専念すべき。

日本の人口に占める男女の割合はほぼ半々なのに、議会の場が男性に偏っていることは、男女平等な議論がされているとは言えないのではないのでしょうか。**多様な立場、考え方の人々が集まって議論してこそ市民の声を反映することができます。**

武雄市における各種審議会・委員会等委員の女性参画率

R6.3月末時点 **34.9%**

地域防災会議における女性委員の割合 (R5.12月末時点)

人口10万人以上の市町

佐賀市	17.4%	8人/46人
唐津市	24.1%	7人/29人

人口3万～10万の市町

鳥栖市	13.8%	4人/29人
伊万里市	17.9%	5人/28人
武雄市	24.0%	6人/25人
小城市	21.7%	5人/23人
神埼市	18.2%	4人/22人

資料) 内閣府「見える化マップ」

Q. 災害の現場になぜ、女性の声が必要なのでしょう？

災害時に、女性が直面する問題（一例）

育児・介護・女性用品の不足

炊き出しや掃除などの過度な負担

不眠、ぼうこう炎や婦人科系の疾患

DV、性暴力

プライバシーや衛生の問題

など

平時の状態から、困難の当事者となる女性たちが、避難所の運営参画や、防災対策づくりに入って、女性の視点で意見を言い合えることが当たり前の状態を作っておくことが大事です。

地域活動により女性が関わっていけるように。
一人ひとりが地域のために「**何ができるのか**」
考え、やってみよう。

